

## ▼オピニオン：インフラテクコンから広がる社会 「インフラ」と「お陰様」

佐藤工業株式会社 土木事業本部 副本部長  
岩橋 公男



### ■ 1) 多摩川

私が小学生の頃（昭和40年代）、東京の多摩川は、「死の川」と呼ばれる程汚れていました。



[昭和45年頃の多摩川丸子橋付近（白いのは主に洗剤の泡）](https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005402342_00000) 参照）NHK for school  
[https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das\\_id=D0005402342\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005402342_00000)

高度成長期に一気に人口が増え、団地が建ち並び、工場も集中して造られ、その排水が川に流され、魚は生息できず、浄水場も閉鎖されることになっていました。

しかし、現在の多摩川は、鮎が上るほどきれいな川になっています。



[現在の多摩川丸子橋付近](#)

では、なぜ多摩川はきれいになったのでしょうか。

それは、汚い水を多摩川に流さなくなったからです。つまり、下水道というインフラが整備されたからです。まさに土木の力ではないでしょうか。

### ■ 2) インフラへの感謝

下水道・上水道整備や、発電・送電整備は、我々市民の生活に大きく関わる大切なシステムです。

今でこそ当り前の生活は、インフラによって成り立っています。

それは、空から降ってきたわけではありません。

そこには、多くの人の努力と犠牲が伴っています。当り前は、実は、当り前ではないということをしっかりと市民が理解しているかという、残念ながらそうではないと思います。

我々市民は、今一度、そこに思いを馳せ、そして、そのことに感謝をしなければいけないのではないのでしょうか。

例えば、古来日本は、洪水で悩んできました。山と海が近い日本は、ひとたび雨が降ると平野は洪水に見舞われてしまいます。そこで、川の流れを変えたり（放水路）、堤防を造ったり、ダムを造って洪水から暮らしを守る努力をしてきました。

昨今の集中豪雨では、それでも洪水が発生してしまい、多くの被害が出ています。平野での安全な暮らしを維持するのであれば、まだまだダムを造る必要があります。しかし、今、ダムを造ろうとすると反対運動がおき、なかなか着工できないのが現実です。

今の暮らしが、過去に造られたダムのお陰であることを、再認識した上で賛成反対の議論をすべきではないか。

そこを抜きにして、「安全・安心・快適」を求めることは、片手落ちと言わざるを得ません。

電気がなければ生活がままならないこと、蛇口をひねればいつでもきれいな水が飲めること、生活の一つ一つを見つめたときに如何にインフラが大切であるかがわかるのかと思います。

### ■ 3) 高専生への期待

インフラは、我々の生活にとって必要不可欠のものであるわけですが、当り前のものとして普段はほとんど意識されるものでもなくなっています。そのことが、インフラに携わることへの憧れをなくし、インフラを支える人のなり手が少なくなっている原因の一つではないでしょうか。

「安全・安心・快適」な暮らしを維持・発展させて行くためには、インフラを守り、育てることが前提になるはずで、人も予算も減少していく中で、どうすれば良いのか。

その一つの答えが、インフラテクコンにはありました。地元の高専生が、その市民を巻き込み、自分たちのインフラを守っていくことを発信してくれています。

自分たちの暮らしがインフラという土台の上にあることを市民に意識してもらい、それを守っていくことを小さいけれど大きな力で育てていこう、という発想に大きな希望を感じます。

企業人にはない、自由で、活力のある柔軟な発想に大いに期待をします。

### ■ 4) さいごに

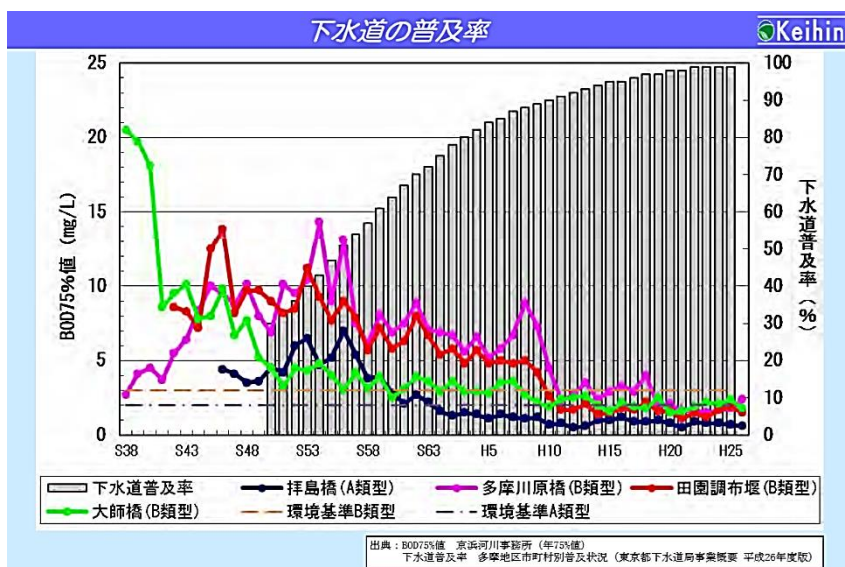
日本語には、『お陰様』というすばらしい言葉があります。

「陰」に『お』も『様』も付ける心を日本人は古来から持っています。

「インフラ」「土木」は、まさに市民の「安全・安心・快適」の“陰”に当たります。陰は、決して表に出る必要はありません。ひたすらに陰で支えています。多くの努力や犠牲とともに。

なぜ、それができるのか。それは、どこかで誰かが、「お陰様」と言ってくれている、それで充分なのです。その「お陰様」の声が、最近では聞かれなくなっていないでしょうか。

市民に今一度「お陰様」の心を取り戻したい、そんな想いをインフラテクコンに託し、未来永劫「安全・安心・快適」な暮らしが続くことを願わずにはおれません。



### 多摩川の汚染度変化と東京都の下水道普及率

出典) 国土交通省京浜河川工事事務所「多摩川について」

[https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr\\_content/content/000627905.pdf](https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000627905.pdf)